

生誕80周年 寺山修司展・澤田教二展／青森から世界へ

寺山修司展

林檎の木ゆさぶりやまず逢いたきとき

寺山修司映画作品上映会

「書を捨てよ町へ出よう」

2015年12月4日〔金〕入場無料

寺山修司の言葉展

2015年12月5日〔土〕～12月15日〔火〕入場無料

寺山修司フォーラム

生誕80周年記念学生俳句コンクール表彰式、寺山の言葉朗読

記念講演会 増田セバスチャン氏

「Kawaiiとアングライズム」ポップアイコンとしての寺山修司

2015年12月12日〔土〕入場無料 ※駐車場利用不可

主催Ⅱ生誕80周年寺山修司展・澤田教二展実行委員会／青森市／青森市教育委員会

共催Ⅱテア・マワールド／（財）青森市文化スポーツ振興公社 協力Ⅱ青森県近代文学館 青森市民図書館 世田谷文学館／e.m.

お問い合わせ…生誕80周年寺山修司展・澤田教二展実行委員会事務局

TEL 017-761-4509（青森市教育委員会事務局 文化スポーツ振興課内）

入場料
大人 ¥60
学生 ¥50
小児 ¥30
シニア ¥20
家族 ¥60
ファミリー ¥70
カクテル付 ¥80



寺山修司
生誕80年

文化庁

Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

平成27年度 文化庁 文化芸術による
地域活性化・国際発信推進事業

1967年青森市にて撮影・菅野善勝

青森高校すぐ近くの駒込川流域一帯には
林檎畑がひろがり、戦後まもない青森市街には
東京文化が流れ込んでいた。

もはや牧歌ではすまされない。

朴訥な少年の感性をゆさぶる時代感覚。

「方言かなし莖に語りおよぶとき」

「北の男はほいえみやすし雁わたる」

俳句を源流とし、あらゆるジャンルを超え、

世界へと羽ばたいていった

鬼才・寺山修司のことば、そしてひとへの愛。

寺山修司遺稿「懐かしのわが家」
1982年9月1日朝日新聞掲載

寺山修司の言葉展

2015.12.5[土]～12.15[火]

9:00～17:00 ※初日のみ10:30オープン 入場無料

会場Ⅰ リンクステーションホール青森2階展示室

「言葉の錬金術師」と呼ばれた寺山修司は、
「私が死んでも墓は建ててほしくない。私の墓は私の言葉であれば充分」
と書き残すほど、多くの偉大な言葉を生み出しました。
そんな寺山修司の色褪せない魅力の一つである言葉に、
没後32年経た今日も沢山の人々が感化されています。
時には心を揺さぶり、時には答えを導き、
時には創造力を駆り立てる、一つの言葉。
本展では、あらゆるジャンルで活躍するトップクリエイター(青森の作家もが、
寺山修司の言葉にインスパイアされた作品を発表します。
クリエイターの視座から、時代の価値観によって変遷し、
視覚的に表現された寺山修司の言葉をお楽しみください。
昨年発見された寺山修司の遺稿「懐かしのわが家」直筆原稿は、
青森県では初公開になります。

9:00～20:00 入場無料

会場Ⅱ リンクモア平安閣市民ホール ギャラリー

近代文学館「特別展没後30周年寺山修司」パネルや、映像の投影

2015.11月下旬～12.15[火]

会場Ⅲ 街【アウガ/青森市民図書館/成田本舗しんまち店】
【A-FACTORY 他 中心商店街店舗】

寺山修司の言葉や生誕80周年記念寺山修司学生俳句コンクールの
受賞作品を、パネル・フラッグ・ステッカーなどにして街の中に展示

■青森市民図書館関連企画

関連図書の展示

2015.10.20[火]～12.15[火] 入場無料

青森市民図書館

お問合わせ＝青森市民図書館 Tel.017-776-2455

大人のための朗読会

『寺山修司～両手いっぱい言葉～』

2015.11.15[日] 16:00～17:30 入場無料

青森市民図書館 会議室2

※中学生以上 25人(申込順)

申し込み＝11月1日(日)～12日(木)に市民図書館へ

お問合わせ＝青森市民図書館 Tel.017-776-2455

青森市民図書館連携企画「県土曜ゼミ」

『寺山修司劇場美術館』寺山修司——そのイメージの源泉

2015.11.21[土] 13:30～15:00 入場無料

青森市民図書館 会議室2

お問合わせ＝青森県立美術館 Tel.017-782-1919

寺山修司展

生誕80周年 寺山修司展・澤田教一展
～青森から世界へ～
林檎の木ゆさぶるやまず逢いたさとき



©1971 テラヤマ・ワールド/ATG

寺山修司映画作品上映会

「書を捨てよ 町へ出よう」

2015.12.4[金] 18:30～21:00 入場無料

青森市男女共同参画プラザ「カダール」

AV多機能ホール

1971 | カラー | 35mm | 138分 | テラヤマ・ワールド / ATG

製作・原作・脚本・監督＝寺山修司

撮影＝鍋田正義 美術＝林静一 / 榎本了吉

音楽＝下田逸郎 / J・A・シーザー / 柳田博義 制作＝九條映子

出演＝佐々木英明 / 斉藤正治 / 平泉征 / 小林由起子 / 丸山明宏

作品解説＝佐々木英明氏(主演俳優 / 三沢市寺山修司記念館館長)

寺山修司フォーラム

2015.12.12[土] 13:00～ 入場無料

青森市の星中学・高等学校 明の星ホール

生誕80周年記念学生俳句コンクール表彰式、寺山の言葉朗読

※駐車場は利用不可

記念講演会 増田セバスチャン氏

Kawaiiとアングライズム

～ポップアイコンとしての寺山修司～

申し込み＝11月9日(月)9:00より

文化スポーツ振興課 Tel.017-761-4509

bunka-shinkou@city.aomori.aomori.jp

(タイトルに「寺山修司フォーラム」と記入、氏名・電話番号・参加人数を明記)



増田セバスチャン(ますだ・せばすちやん) 原宿kawaii文化をコンテキストとしたアーティスト/アートディレクター。1995年にSensational Kawaiiがコンセプトのショップ「6% DOKIDOKI」を原宿にオープン。きやーりーぱみゅぱみゅ「PONPONPON」MVの美術で世界的に注目され、六本木ヒルズのクリスマスツリーや原宿観光案内所の世界時計のモニュメントなどを制作。2014年からニューヨークを拠点にアーティスト活動を展開中。



寺山修司(てらやましゅうじ) 1935年12月10日、青森県生まれ。橋本小学校4年のとき、青森大空襲で三沢市に転校。三沢市で4年間を過ごす。中学2年になって野館中学校に転入。俳句に熱中しはじめる。青森高校へ進学し、「魚類の薔薇」「青い森」「牧羊神」などの同人誌を通じ、10代の「若き俳人」として全国的にその名を知られる。18歳で短歌研究新人賞特選「チェホフ祭」を受賞し、歌壇に鮮烈にデビューする。60年処女戯曲「血は立ったまま眠っている」が劇団四季で上演され、「乾いた湖」(監督・篠田正浩)で初めての映画シナリオを手がける。67年には横尾忠則、東由多加、九條映子らと演劇実験室「天井桟敷」を結成。海外でも多数公演を行い高い評価を得た。詩人、エッセイスト、小説家、評論家、作詞家、映画監督、劇作家、競馬エッセイなども。1983年5月4日47歳で急逝。1997年、多感な少年時代を過ごした青森県三沢市に寺山修司記念館開館。

主催＝生誕80周年寺山修司展・澤田教一展実行委員会

青森市 / 青森市教育委員会

共催＝テラヤマ・ワールド / (一財)青森市文化スポーツ振興公社

協力＝青森県近代文学館 / 青森市民図書館 / 世田谷文学館 / e.m.

お問い合わせ

生誕80周年寺山修司展・澤田教一展実行委員会事務局

Tel. 017-761-4509 (青森市教育委員会事務局 文化スポーツ振興課内)